

シュリー・ハヌマーンの大跳躍

ラーマヤナの物語より

第2章

風に乗って飛ぶ

ハヌマーンが跳び上がると、マヘンドラ山は揺れ、ゴロゴロと鳴り響きました。天上でそれを眺めていた神々は、偉大なサル of 勇気とラーマ神への献身に拍手喝采しました。神々は祝福を送り、彼に花を降り注ぎました。

一方、海の神であるヴァルナは、ハヌマーンのことを案じていました。前方に広く横たわる海峡を、彼は跳び越えなくてはならないのです。ヴァルナ神は、ハヌマーンが向かう先に無事にたどり着くには、途中で休む場所が必要だと考えました。そこでヴァルナは、波の下に沈んでいる山に呼び掛けました。

「大きくなれ！」ヴァルナ神は山に命令しました。「海上に現れてシュリー・ハヌマーンの休む場所となれ」

彼が言葉を発するやいなや、海は渦を巻き、泡がぶくぶくと立つと、沈んでいた山が現れ始めました。ハヌマーンは、上空を矢のように跳びながら、黄金色の山の頂が海面を割くようにせり上がってくるのに気づきました。ハヌマーンにしてみれば、その山は真正面に現れたので、自分の行く手を遮るつもりなのだと思います。すると山の頂で、誰かが彼に止まるように手を振っているのが見えました。

「あなたは誰ですか」と、ハヌマーンは聞きました。

「私はこの山の神です」と答えが返ってきました。「海の神ヴァルナから、あなたの休憩場所として浮かび上がるようにと頼まれました。ここに来て、斜面で横になってください。そして疲れが取れたら、また旅を続けることができますでしょう」

「あなたと海の神に感謝します」と、ハヌマーンは言いました。「しかし、私はランカーに到着してシーターを見つけるまで休みません」

山を跳び越えて海上を滑空するハヌマーンを見ていた神々は、彼の決意の固さに拍手喝采しました。しかし彼らは、まだ数々の困難が待ち受けていることを知っていました。ハヌマーンはそれらにどう対処するのでしょうか。

それを知るのに長く待つ必要はありませんでした。その時、黄色い目と大きく裂けた牙を持つ凶暴な女の鬼神であるラクシャシーが、ハヌマーンの前に現れました。それは、天界の大蛇の母、スラサでした。

「止まれ！」と、彼女は呼びました。「私の口を通らないでここを通過することはできない！」

「私を食べるといふのか」と、ハヌマーンは信じられない思いで聞きました。

「そうだ」と、ラクシャシーは唇をなめながら言いました。

「もしそれが私の運命なら、それを受け入れよう」と、ハヌマーンは言いました。
「しかし、私は神の使命を果たしに行くのだ。ここで止まるわけにはいかない。
帰りにあなたの口に入ろう」

「駄目だ」と、ラークシャシーは言いました。「お前はこれをせずに行くことはできない。これはブラフマ神が私に与えた恩恵なのだ」

「わかった」と、ハヌマーンは言いました。「でも、どうしたらあなたの口に入れるのか。私は大きすぎる」

「私の口を通るものに、大きすぎるものはない」と、スラサは言いました。そして突然、牙を大きく開けて拡大し始めました。するとハヌマーンは、それ以上に大きくなりました。するとスラサは、それよりもっと大きくなりました。

シュリー・ハヌマーンは、彼女を何回も大きくさせて、ついに彼女の口は海と同じくらい大きくなりました。するとハヌマーンは、閃光(せんこう)のように素早く親指大に小さくなると、スラサの口の中に飛び込みました。一瞬遅く、スラサは何が起こっているかに気づきました。彼女が急いで牙を閉じた時には、ハヌマーンは飛び出て、再び大きくなっていました。

「私はブラフマ神の命令に従って、あなたの口を通り抜けた」と、彼は言いました。
「だからもう、あなたは私を行かせなくてはならない」

すると、恐ろしいラクシャシーが、恵み深い女神に変容しました。彼女は、ほほ笑んで彼の前に立つと、「機転を利かせましたね」と言いました。「ブラフマ神は喜んでいきます。ハヌマーン、ヴァーユの息子よ、あなたが目的を達成しますように」

こうして、ハヌマーンは先へと跳び上がりました。彼は活力に満ち、風に乗って高く低く滑空しました。彼は、ラーマ神は自分と共にあり、この探索を導き守っていることがわかりました。神に仕える機会を持つことは、彼にとって純粋な喜びでした。

やがて、眼下に島の海岸線が見えてきました。ついにランカーです。ハヌマーンは、黄金色の海岸とキラキラと輝く小川、そしてその向こうにそびえる高い山の頂を見渡しました。高い山々の合間に、ランカープリーの王国の白と金色の塔が見えました。

地上に降りようと準備をしながら、ハヌマーンは、巨大なサルが現れたら大変な注目を集めてしまうかもしれない、と思い当たりました。そこで、かわいい小動物になって塔のそばにふわりと降り立ちました。ハヌマーンはサルの赤ん坊の姿になったのです。

続く...